

# 事務局だより

第9回

## みえの農村風景 写真コンテスト受賞作品

最優秀賞



「一休み」(熊野市)鈴木丈夫

観光名所としての努力が続く千枚田は、次の世代へと着実に引き継がれています。ハザ掛けに忙しいご年配の方、カメラを持った壮年の方などを背景に、未来を担う子どもたちに焦点を当てたこの一枚は、それらの歩みを象徴しているかのような素晴らしい作品となっています。

優秀賞



「春」(南伊勢町)山本幸平

今咲き誇る桜の下で、秋に広がる実りの準備が始まっています。赤い農機のコントラストが、春の象徴と見えない秋の稲穂の間に入り、しっかりと存在感を示しています。単純な春ののどかな一日に、時の流れが加わった秀作です。



「田植前の遊び」(多気町)澤田静子

毎年恒例、代かき兼泥遊びの画です。泥だらけになっているので全体的には茶色が強いのですが、まだ辛うじて汚れていない部分のシャツと、背景の紫陽花がいいアクセントになっています。

特別賞

「豊作で笑顔」(松阪市)藤高文男

飛び交うトンボに麦わら帽、首に巻いた薄手のタオル、何本もの稲穂を抱える元気なおばあちゃん、全てが一枚に収まっている見事な秋の作業風景です。曇りと帽子のため、おばあちゃん笑顔が隠れてしまったことだけは少し残念です



「伝統の注連縄作り」(玉城町)中世古健吾

この地方特有の注連縄を作っている伝統的な姿が、段ボールやカレンダーのある日常を背景に写っています。日常に生きる伝統を写した、報道写真のような一枚です。

「太陽の子」(鈴鹿市)酒井房子

自分たちの背丈より高い向日葵畑を、こちらに目を向けつつ、子どもたちが駆け抜けます。夕立が来そうな空ですが、きっと雨宿りもせずに全力で走るのでしょう。短い物語の挿絵のような状況に、想像力が掻き立てられる一作です。



「ワーイ今年も豊作だ」(明和町)松本征夫

鎌を持った手を一休みさせてポーズをとっている女の子の瞬間を切り取った作品です。稲束の持ち方や鎌を持っている(または地面に置いている)場所が全員違って、ありきたりな構図を打破しているように思われます。

伊勢新聞社賞



「楽しい代かき」(明和町)松本富美子

整地のための代かきも、子どもたちにかかれれば泥遊びの権利書になっています。ズボンもスカートも関係なし、後ろの子は顔まで遠慮なし、親の苦勞もお構いなし、存分に暴れまわる子どもたちの躍動感を切り取った作品です。